

中期目標・中期計画

令和元年（2019）～令和5年（2023）

進捗状況報告書（令和元年度）

岐 阜 女 子 大 学

目

次

1. 学園の規模の展望	1
2. 経営改善の取組	2～ 4
3. 中期計画（目標，計画）	
・ 家政学部 生活科学科（生活科学専攻，住居学専攻）	5～11
・ // 健康栄養学科	12～14
・ 文化創造学部 文化創造学科（文化創造学専攻，デジタルアーカイブ専攻，初等教育学専攻）	15～18
・ 大学院 文化創造学研究科	19～21
・ // 生活科学研究科	22～23
・ 地域文化研究所	24～25
・ 文化情報研究センター・デジタルアーカイブ研究所	26～30
・ 衣食住生活研究センター	31～32
・ 長寿健康栄養学センター	33～34
・ 沖縄カリキュラム開発研究センター	35～37

I 学園の規模の展望

中期計画												進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
1. 学部入学者数の実績（H27～R2）と予測（R3～R5）（単位：人）												I	R1 学生募集活動結果（R2 年度入学者数 5月1日現在）	R2 年度入試別入学生数
学部	学科		H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度			
家政	生活科	入学定員	40	40	40	40	40	50	50	50	50			
		志願者	52	38	53	54	46	59						
		合格者	53	40	52	54	44	57						
		入学者	27	22	35	24	29	26	(35)	(35)	(40)			
健康栄養	健康栄養	入学定員	160	160	160	160	160	120	120	120	120			
		志願者	277	244	212	199	201	148						
		合格者	227	234	203	196	196	144						
		入学者	125	132	116	105	123	95	(140)	(140)	(160)			
文化創造	文化創造	入学定員	130	130	130	130	130	160	160	160	160			
		志願者	132	145	139	144	123	165						
		合格者	127	143	133	141	121	159						
		入学者	71	79	74	70	75	95	(100)	(100)	(110)			
全学部	合計	入学定員	330	330	330	330	330	330	330	330	330			
		志願者	461	427	404	397	370	372						
		合格者	407	417	388	391	361	360						
		入学者	223	233	225	199	227	216	(275)	(275)	(310)			
<p>※ 合格者には、一般入試・センター入試の第2志望合格者を含む。</p> <p>2. 今後の方針と実施策</p> <p>入学定員及び収容定員を共に充足しておらず、特に、今まで支えとなっていた健康栄養学科の入学者が減少してきており改善が急務である。各学科専攻の見直しと教職員が一丸となって学生募集活動の強化を図り学生の確保を行う。</p> <p>(1) 学科専攻の名称の変更をはじめとして、受験生が理解しやすい学科専攻にするために後述する「学務改革計画」に則り改組を検討し実施する。</p> <p>(2) 地域ごとに貼り付ける学生募集担当者への広報スキル教育を行い広報力の強化を図り、受験生及び保護者、高校教諭に対し広報活動を展開する。</p> <p>(3) 大学説明会・オープンキャンパスの開催日を増やし、PRを強化し参加者の増を図る。</p> <p>(4) 受験生の志望動向を把握して受験生・保護者のニーズに対応する広報を展開する。</p> <p>(5) 高校生向けに、出張講義及び各種コンテストの実施・沖縄修学旅行のテキスト「おうらい」を作成・配布し広報活動を充実させる。</p> <p>(6) スクールバスの運行等学生募集活動のためのあらゆるツールの整備を徹底させる。</p>														

II 経営改善の取組

中期計画									進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
1. 学生数計画 (単位：人)									II	学生数（令和2年5月1日現在） 大学院生 58人（100.0%） 学部生 923人（97.1%） ※目標を下回った	学生数一覧表 （2020.5.1現在）
区 分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	増減対30			
大学院	68	69	58	56	66	66	66	-3			
学 部	959	903	951	994	1,029	1,075	1,075	172			
合 計	1,027	972	1,009	1,050	1,095	1,141	1,141	169			
2. 常勤教職員数計画 (単位：人)									III	令和元年度常勤職員 常勤教員 90人 常勤職員 41人	
区 分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	増減対30			
常勤教員数	86	85	83	83	83	83	83	-2			
常勤職員数	41	41	39	39	39	39	39	-2			
合 計	127	126	122	122	122	122	122	-4			
3. 事業活動収支計画 (単位：百万円)									I	事業活動収支差額 2,155,000円 実績 △89,792,471円 ※目標を大きく下回った	
区 分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	増減対30			
学生生徒等納付金	1,103	1,008	1,077	1,137	1,175	1,221	1,221	213			
経常費等補助金	180	180	180	180	180	180	180	0			
その他教育活動収入	149	124	122	127	123	129	125	1			
教育活動収入計	1,432	1,312	1,379	1,444	1,478	1,530	1,526	214			
人件費	789	770	753	753	753	753	753	-17			
一般経費	491	480	480	480	480	480	480	0			
減価償却額	166	158	143	137	137	137	137	-21			
その他教育活動支出	6	2	2	1	1	1	1	-1			
教育活動支出計	1,452	1,410	1,378	1,371	1,371	1,371	1,371	-39			
教育活動収支差額	-20	-98	1	73	107	159	155	253			
教育活動外収支差額	2	1	1	1	1	1	1	0			
特別収支差額	15	0	0	0	0	0	0	0			
基本金組入前当年度 収支差額	-3	-97	2	74	108	160	156	253			
基本金組入額合計	-69	-58	-58	-58	-60	-60	-60	-2			
当年度収支差額	-72	-155	-56	16	48	100	96	251			
基本金取崩額	0	0	0	0	0	0	0	0			
翌年度繰越収支差額	-2,534	-2,689	-2,745	-2,729	-2,681	-2,581	-2,485	204			
(参考)											
事業活動収入計	1,453	1,313	1,380	1,446	1,479	1,531	1,527	214			
事業活動支出計	1,456	1,410	1,378	1,371	1,371	1,371	1,371	-39			
事業活動収支差額比率	-0.2%	-7.4%	0.1%	5.2%	7.3%	10.5%	10.2%	17.6%			
人件費比率	54.3%	58.6%	54.6%	52.1%	50.9%	49.2%	49.3%	-9.3%			
借入金残高	0	0	0	0	0	0	0	0			

2 業務運営計画	2	リーフレット各種
(1) 事業活動収入の増を図る	I	①新入学生 216/330=65.5% 編入学 37 人 大学院 19 人
①入学定員と収容定員確保のための活動の推進	I	②充足率 981/1432=68.5%
②令和 5 年度（最終年度）における事業活動収支差額比率 10%を目標とする。	III	年度比率 △6.8%
(2) 国庫補助金の確保を図る（経常費補助金・科学研究費他）	III	(2)
①外部資金獲得支援担当者による指導支援を積極的に行ない、獲得する。	IV	①獲得補助金、経常費補助金 165,357 千円
(3) 事業活動支出の低減を図る	IV	(3)
①きめ細かい予算立案と執行管理の徹底	IV	①効率的な予算立案と執行管理を徹底させた 予算配布は部署申請額の 85%とし、執行した
・部署予算申請内容の確実なヒアリングによる予算策定	IV	(4)
・予算執行管理を徹底する	III	修繕維持は確実に執行した
(4) 健全・安全な教育環境の提供を図る	III	(5)
①校舎及び教育設備の修繕維持は財政面を考慮しながら計画的に実施する	I	重要事項検討WGは定期的に活動した
(5) 大学経営の意思決定に機能するための措置	I	(1)
① I R 室を充実させ、大学の質の保証、大学の諸活動に係る一元化を図る	III	出願総数 372 件（前年比 100.5%）入学者数 216 人（前年比 95.2%）
3 広報活動計画	III	①年間広報活動計画を立案し、活動した。
(1) 戦略的な広報活動計画を立案し強力に実施する。	III	②担当者を配置して活動した。
①年間活動計画の立案、実施	III	③広報資料作成数数学科専攻リーフレット 23 部
②広報担当者（高校・短大）配置	III	④大学説明会 5/21 開催、オープンキャンパス 10 回開催
③広報資料作成と活用	III	
④大学説明会、オープンキャンパス、ガイダンスの実施	III	
⑤各種コンテストの実施	IV	
⑥出張講義の P R と実施	III	
⑦「おうらい」の発刊と高校への活用 P R	III	
⑧奨学制度の整備	III	
⑨スクールバスの運行	II	大学院入学生 19 人
⑩効果的な広告宣伝の実施	II	学部・学科・専攻の定員の変更申請を行った。 家政学部 生活科学科（50 名） 生活科学専攻（25 名）
4 学務改革計画		
(1) 学部学科専攻の改革を行う（目標、令和 2 年度スタート）		
家政学部 生活デザイン学科（50 名） 生活デザイン専攻 住居学専攻		

<p style="text-align: center;">インテリア専攻</p> <p style="text-align: center;">健康栄養学科 (120名)</p> <p>文化創造学部 文化創造学科 (160名) 文化創造学専攻 書道・国語専攻 デジタルアーカイブ専攻 子ども学専攻 等教育学専攻</p> <p>(2) 学生支援の充実を図る</p> <p>①教育支援センターの充実させるため、教職員が協力して学生の生活から教育までの指導を徹底させ、資格取得の支援と退学の抑制を図るため、教育支援センターの充実を図る</p> <p>②キャリア支援センターにおいて全学的なキャリア教育を実施し、就職内定率98%を目指す</p> <p>③経済的な困窮学生に対し特別奨学金他諸制度を継続、充実させる</p> <p>(3) 将来を見据えた活性化を図る教職員の配置をする</p> <p>①任期雇用制度を維持しつつも、効率的な教職員の配置及び採用を行う</p> <p>②明確な人事評価の実施と業績配分を行う</p>		<p style="text-align: center;">住居学専攻 (25名)</p> <p style="text-align: center;">健康栄養学科 (120名)</p> <p>文化創造学部 文化創造学科 (160名) 文化創造学専攻 (60名) デジタルアーカイブ専攻 (50名) 初等教育学専攻 (50名)</p> <p>IV 管理栄養士国家試験合格率 92.0% (104/113) 教員採用試験合格者 (幼稚園、小学校、中高家庭科・国語) 総合旅行業務取扱管理者試験合格率 33% (全国平均 11%) 国内旅行業務取扱管理者試験合格率 80% (全国平均 38%)</p> <p>IV 内定率 99.5% (221/222)</p> <p>III 特別奨学金を給付した (65人)</p>	<p>資格試験合格者状況等</p>
--	--	---	-------------------

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【1 教育の質の向上】

学部名：家政学部 ， 学科名 生活科学科

中期計画	進捗状況の記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻・住居学専攻）・</p> <p>①被服実習を強化した中・高の家庭科教員養成のカリキュラムに適した専攻名称に変更する。</p> <p>②カリキュラムの見直し（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学士課程を通じて「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げられた専門知識・技術を習得するための教育課程を見直す。 ・家庭科教員養成のみに専念するカリキュラムの体系化を図り、シラバスを充実させる。 <p>③実習・演習科目の充実（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科は実習が全体の5/10を占める教科であるため、実習・演習科目を充実させ実践的に学修できるように計画する。 ・教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に従い実習面に強く、実践力の高い家庭科教員養成に向けて実技テストを実施する。 ・各種のコンテストにチャレンジをさせて、高度な技術の修得と自信を持たせる。 ・アクティブラーニングを採り入れ、倫理的、社会的能力、経験などを含めた汎用的能力の養成を図る。 ・和服造形実習の集大成として、伝統衣装の共同製作を継続する。 <p>④入学前に実施する課題を作成（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校家庭科の学習指導要領に対応した内容を中心に知識力を身に付けさせ、合わせて文章能力も付けさせる。 ・入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に則り、入学前の課題の評価を実施しカリキュラムの改善を図る。 <p>⑤専門基礎科目のテキストを作成（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育を中心としたコア・カリキュラムに合わせ専門基礎テキストを改訂する。 <p>⑥資格取得のガイドブックを作成（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の教員採用試験のためのテキストを改訂する。 ・現在の定員充足率は58.8%であるため、これを100%にするため教員採用試験の合格率をあげ、就職に結びつくようにする。 ・学修成果の測定・把握などにより、教育内容や教授方法のユニーク化と充実を目指す。 ・ポートフォリオを活用し、学生の学修履歴と自己管理システムを構築する。 ・学生の多様化により、教授の個性を重視したユニークな教授方法の開発や授業の多様化を図る。 	<p>I</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>IV</p> <p>IV</p> <p>IV</p>	<p>① 専攻名の変更(生活科学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専攻の方針を見直し、専攻名を検討したが、変更までには至らなかった。 <p>② カリキュラムの見直し（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシーに従い、専門知識・技術を修得するための教育課程を整備した。 <p>③ 実習・演習科目の充実（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の実習に合わせて実習・演習科目を充実させて、実践的に学修できるようにし、実技テストで技術力の定着を図った。 ・第10回岐阜マザーズコレクション・コンテストに7名応募して、2名が1次審査を通過し、1名は岐阜県繊維協会会長賞を受賞することができた。 ・和服造形実習の集大成として、大嘗祭で天皇お付きの女官の衣装である采女の共同製作と着装を通して伝統文化を継承させた。 <p>④入学前に実施する課題を作成（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育を中心にし、実技を取り入れた課題に直した。 ・アドミッション・ポリシーに則り、入学前課題をグレードアップテストで実施・評価を行った。 <p>⑤専門基礎科目のテキストを作成（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育を中心としたコア・カリキュラムに合わせて、専門基礎テキストを改訂した。 <p>⑥資格取得のガイドブックを作成（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の教員採用試験のためのテキストを改訂した。 ・時代の進展に対応して、家庭科教育法においてICTを活用した模擬授業を実践した。 ・洋服造形実習においてポートフォリオ作成を行い、学生による学修記録と振り返りをさせた。 	<p>専攻リーフレット</p> <p>カリキュラム</p> <p>実技テスト結果</p> <p>入学前課題</p> <p>専門基礎テキスト</p> <p>資格取得ガイドブック</p> <p>模擬授業の様子</p>

<p>①在学中インテリアコーディネーターを取得し、卒業時までに二級建築士合格レベルの知識・技術を有する人材を養成する。(住居学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インテリアコーディネーター、二級建築士の資格取得支援講座を継続して開講 <p>②建築・インテリア各々の専門性をより高めるために、カリキュラム構成を整備する。(住居学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の職業を見据えた専門演習等のカリキュラムを整備し、学年次の授業科目の構造化と接続化による学修の体系化を図る ・特別プロジェクト実習での建設、リフォーム実践活動を継続し、建築・インテリアデザインの実践力を養成 <p>③特別プロジェクト実習及び地域連携活動を通じてコミュニケーション能力、ビジネスマナーを養う。(住居学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習Ⅰ・Ⅱ、応用演習Ⅰ・Ⅱの中でも、コミュニケーション講座、ビジネスマナー講座の機会を設ける <p>④各自の将来進路に合わせ、取得資格の選択とその取得計画の指導をクラスアドバイザーが中心となっておこない、授業と連動した資格支援のための初年次教育テキストを改訂する。(住居学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インテリアコーディネーター、二級建築士などの資格取得支援講座を継続して開講 ・学生の学修履歴と自己管理システムを構築(ポートフォリオの作成など) <p>⑤入学前課題、グレードアップテストにより入学者全体の数学基礎力を把握し、構造力学基礎において能力別授業を展開し、数学基礎学力の修得を促す。(住居学専攻)</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置(生活科学専攻・住居学専攻)</p> <p>①コア・カリキュラムを中心とした教育(生活科学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人としての品位を高めるマナー講座の実施 ・長期休暇学修課題の実施 ・教員採用試験対策講座の実施 <p>①昨今のインテリアデザインに関する学びのニーズの高まりに対応し、より学習内容を明確に示すためにインテリア専攻(仮)を新設する。(住居学専攻)</p>	<p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅳ</p> <p>Ⅱ</p>	<p>①インテリアコーディネーターに関しては、昨年度の8名から今年度は10名の合格者があった。二級建築士は過去5年間で21名(卒業後の受験であるため確認が取れている数)の合格者を出している。資格支援授業の他に資格対策集中講座を設け、引き続き支援を行っていききたい。</p> <p>②令和元年には、設計論・製図及びCAD演習をメイン・コアとした二級建築士学科試験4科目の系統によるコアカリキュラム編成の中に、一級建築士学科試験5科目の集中講座(建築専門演習Ⅲ)を開講した。また、コアカリキュラムを構成する各科目の指導目標と到達目標を明確化した。特別プロジェクト実習では、平成18年に完成した実習棟のリフォーム提案を大学に行い、許可を得て工事に着手。また、各務原市との連携協定から派生した産官学連携事業では、学生が提案した空き家リノベーション案も取り入れた工事が行われ、その施工にも参加し、実践力を養成する良い機会となった。</p> <p>③実習棟リフォーム(特別プロジェクト実習)や空き家リノベーション(地域連携活動)でのプレゼン及び各工事作業では、行政関係者や工事関係者から直接指導を受けるなど、実践的なコミュニケーション力の向上を図る機会となった。また、応用演習Ⅱでは、授業内容にプレゼンテーショントレーニングを取り入れ、コミュニケーション力の向上を計った。</p> <p>④年3回の個人面談やオフィスアワーを利用して、クラスアドバイザーが中心となって在学中の資格計画についてアドバイスを行っている。コアカリキュラムを中心に、学修ポートフォリオを活用し、学修履歴やオリジナルの設計資料集の作成に取り組んだ。</p> <p>⑤構造力学基礎Ⅰでは、入学時に行う数学のグレードアップテストにより数学基礎力を把握し、能力別授業と小テスト等を実施し、数学基礎学力の修得を促した。</p> <p>①コア・カリキュラムを中心とした教育(生活科学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～4年生まで長期休暇課題を実施し、提出を徹底させている。 ・教員採用試験対策講座を実施した。 <p>①令和2年度から住居学専攻の定員数が20名から25名に変更となったが、専攻の新設及び名称については、検討中である。</p>	<p>資格取得状況表(外部評価資料2020年2月) 時間割、支援講座日程資料</p> <p>学生便覧 カリキュラムフロー(マップ) コアカリキュラムの評価と改善 特別プロジェクト実習プレゼン資料</p> <p>地域連携実習記録 応用演習テキスト</p> <p>個別指導計画書、自助資源シート 初年次教育テキスト 学修ポートフォリオ資料(外部評価資料2020年2月)</p> <p>入学前課題、グレードアップテスト 成績表、個別講義計画表</p> <p>コア・カリキュラム 長期休暇学修課題の実施計画 対策講座資料</p> <p>大学パンフレット</p>
--	---	--	--

<p>②GPA を基準にしたグループ分けを行い、能力別の学修支援を導入（住居学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に数学基礎力を要する科目に関しては、オフィスアワー等を活用し個別の学修支援を行い、小テスト、試験結果などのデータの共有化を行う。 <p>（3）学生への支援に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻・住居学専攻）</p> <p>①学生支援のあり方を見直すとともに、入学前から卒業後までを視野に入れた各種支援策の充実を図る。（生活科学専攻）</p> <p>②アドバイザーによる個々への対応を実施（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験など（卒業生含む）に対して、サポート体制を構築する。 ・個々の学生に対して面接練習をする。 <p>①クラスアドバイザーを中心とし、大学生生活、資格取得、就職活動指導等、入学前から卒業後までを視野に入れ、キャリア支援センターや教育支援センターとの連携により各種支援の充実を図る。（住居学専攻）</p> <p>②特別プロジェクト実習、地域連携プロジェクトなど学生主体の研究活動を発展的に支援し、実社会の問題に取り組むことにより、学際的な研究や学修への関心を促す。（住居学専攻）</p> <p>③リメディアル教育を積極的に進め、特に数学基礎力に関しては、能力別、個別対応を行い、継続的に実施する。（住居学専攻）</p>	<p>II</p> <p>IV</p> <p>IV</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p>②（1）⑤で記したように、数学基礎力に関しては、能力別の学修支援を行っているが、他の科目についての能力別学習支援体制は、検討中である。</p> <p>①学生支援のあり方を見直し、入学前から卒業まで各種支援策の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や高等学校・企業で働く卒業生から大学時代の過ごし方、現在の仕事等について話を聞く機会を設けた。 <p>②アドバイザーによる個々への対応を実施（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験不合格者に対して面接を行い、校種や常勤・非常勤の希望を尋ね、講師先の紹介をした。 <p>①クラスアドバイザーを中心に、大学生生活、資格取得、就職活動等の支援を行った。就職活動指導については、専攻で就活セミナーを開催するとともに、卒業生を招いての交流会、学生－アドバイザー－キャリア支援センターとの連携により学生の就職支援を行い、就職率 100%を達成している。</p> <p>②学生による実習棟のリフォームや空き家のリノベーションデザイン提案、特産材の利活用提案など、実社会の問題に取り組む機会を提供した。今後、学際的な研究への関心につながるよう、継続的な取り組みを検討している。</p> <p>③AO入試、推薦入試の合格者に対して、入学前支援テキストに基づいて高校生以下の学修におけるつまずきについて、個別に支援プリントを送付し、入学前に学びなおしができるよう支援している。</p> <p>また、1年次前期の構造力学基礎Ⅰ、後期の自己創造Ⅰにおいて、数学基礎力を養成している。</p>	<p>入学前課題、グレードアップテスト 成績表、個別講義計画表</p> <p>資格取得対策講座資料</p> <p>卒業生の進路状況</p> <p>個別指導計画書、自助資源シート 資格取得状況表他（外部評価資料 2020 年 2 月） 就活セミナー資料</p> <p>実習棟リフォーム、各務原空き家リノベーションの取り組み資料（外部評価資料 2020 年 2 月）</p> <p>入学前課題、グレードアップテスト 成績表、個別講義計画表</p>
--	---	---	---

【2 学術研究の推進】

中期計画	進捗状況の記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>2 研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻・住居学専攻）</p> <p>① 科研費の申請、採択のための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科研費を申請するに当たり複合的な学問体系である生活科学専攻は、主として複合領域分野から申請し、採択を目指す。 ・ 具体策としては、申請・採択の向上を図るため、大学院での研究活動と連携した研究を進める。 <p>② 学生主体の研究会の活動を山県市とコラボレーションして取り組む。</p> <p>① 科学研究費の申請、採択のための措置（住居学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員各自の専門分野の研究はもちろん、専攻の教育内容と質の向上に資する研究テーマでの申請・採択を目指す。 ・ 採択の実績向上のために、ダイバーシティ事業の外部資金獲得支援等を積極的に活用する。 <p>② 「住居学研究誌」を年1回、定期的に継続発刊し、研究の充実を図る。（住居学専攻）</p> <p>③ 地域連携プロジェクトで実施してきた空き家リノベーション提案などを体系的にまとめ、リフォーム、リノベーションに関するテキスト等を整備し、インテリアデザイン教育の充実を図る。（住居学専攻）</p> <p>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻・住居学専攻）</p> <p>① 研究に対する会議を実施し研究を進める。（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の家庭科の授業（被服実習）の補助として実践場所を選定する。 ・ 産・官・学連携による共同研究の推進 	<p>IV</p> <p>IV</p> <p>IV</p> <p>III</p> <p>IV</p> <p>III</p>	<p>① 科研費の申請・採択のための措置（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科学専攻として、衣食住研究センター冊子の衣生活部門に研究報告をまとめた。 <p>② 学生主体の研究会活動を山県市とコラボレーションして取り組む。（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科学専攻4年生の「学士論文発表要旨集」を発刊した。 ・ 生活科学研究会では、山県市とのコラボレーションパートⅡに取り組み、1年間の研究活動をまとめた第39号生活科学研究冊子を発刊した。 <p>①平成31年度私立大学研究ブランディング事業「地域資源デジタルアーカイブによる地の拠点形成のための基盤整備事業」として、各務原市空き家リノベーションデザイン案の作成・提案、及び空き家のサブリース物件のリノベーションデザイン・改修工事を行う事業が採択された。</p> <p>②2017年より1年間の活動内容をまとめた「住居学専攻誌」を作成している。研究誌として「住居学研究誌」の発行を目指していたが、紀要をはじめ衣食住生活研究センターの研究誌等、研究発表する場合は多方面で得られるため、今後は専攻独自の研究誌発行にこだわらず、実践活動内容に関わる研究テーマを精査し、より研究の充実を図り継続的な発表を行っていく予定である。</p> <p>③(1)①で記した私立大学研究ブランディング事業の報告書として、2016年度から実施している各務原市空き家リノベーション提案をまとめた。また、2019年度の空き家サブリース物件の改修工事では、リノベーションデザイン・改修工事のプロセスの記録（動画も含む）を行い、本学でのリフォーム計画論等の授業資料として活用していく予定である。</p> <p>① 研究に対する会議を実施し研究を進める。（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長良国際医療センター入院患者の機能的でおしゃれな衣服の考案・デザイン・製作を行った。ファッションショーはできなかったがプレゼントできた。 ・ 美江寺観音美江寺祭りの天平衣装の共同製作に取り組んだ。 ・ NHK 岐阜から美濃デザインファッションショー「明智衣荘」の製作依頼を受け、3年生と2年生の2チームがデザイン画を作成後作品製作を行った。ファッションショーはできなかったが、NHK 岐阜放送で紹 	<p>衣食住生活研究・活動レポート第4号</p> <p>学士論文発表要旨 生活科学研究会誌第39号</p> <p>平成31年度私立大学研究ブランディング事業デジタルアーカイブ研究企画書</p> <p>住居学専攻誌（印刷中） 岐阜女子大学紀要 第49号 抜刷</p> <p>私立大学ブランディング事業デジタルアーカイブ研究報告書 各務原市空き家リノベーション事業</p> <p>実施報告書</p> <p>実施報告書</p>

<p>①衣食住生活研究センター内で、他専攻との共同研究組織づくりを行い、学際的な研究の拡充を図る。(住居学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産官学連携活動の継続、拡充 	<p>II</p>	<p>介された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和服造形実習で共同製作した伝統衣装（浴衣・十二単・束帯）の着装を英語版にして、大学のホームページで紹介した。 <p>①衣食住生活研究センター内での他専攻との共同研究組織づくりは、まだ検討段階であるが、住居学専攻では引き続き各務原空き家リノベーションの産官学連携活動の継続の他、様々な組織との連携を推進していく予定である。</p>	<p>ホームページ掲載</p> <p>各務原市連携協定書</p>
---	-----------	--	----------------------------------

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>3 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻・住居学専攻）</p> <p>①毎年 300 点ほどの作品が集まり、中学生から 60 歳以上の方まで幅広い応募がある。さらにこのコンクールの充実を図る。(生活科学専攻)</p> <p>②伝統文化としての裁縫に関する技術をより高められるように中学生の参加を募る。また大学祭に表彰式と作品展を実施する。さらに優秀作品を岐阜駅周辺での展示を通してPRする。(生活科学専攻)</p> <p>③ECO+ものづくり活動の拡大を図り、コミュニケーションの重要性・必要性を学ぶ機会とする。(生活科学専攻)</p> <p>④県・市など各行政機関の各種委員会への構成員としての活動協力し、地域との連携を推進する。(生活科学専攻)</p> <p>・岐阜県建築審査会委員 ・岐阜県開発審査会委員 ・岐阜市開発審査会委員</p> <p>・山県市都市計画審議会委員・日本建築学会岐阜支所運営委員 ・岐阜市建築工事総合評価審査委員会委員他</p> <p>(住居学専攻)</p> <p>・岐阜県建築審査会委員 ・岐阜県開発審査会委員 ・岐阜市開発審査会委員</p> <p>・山県市都市計画審議会委員・日本建築学会岐阜支所運営委員 ・岐阜市建築工事総合評価審査委員会委員他</p> <p>②高校生・短大生対象の「わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテスト」の充実による高大連携を推進する。(住居学専攻)</p> <p>③建築・インテリアの学びを持つ近隣の工業高等学校などとの、高大連携による学びの高度化と地域振興への貢献。(住居学専攻)</p>	<p>IV</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p>① 手づくり絵本コンクール（生活科学専攻）</p> <p>・令和元年度第 10 回手づくり絵本コンクールは 397 名の応募があった。千葉・埼玉・宮崎県等遠方からの応募が増えた。</p> <p>② 伝統文化裁縫コンテスト（生活科学専攻）</p> <p>・令和元年度第 7 回伝統文化裁縫コンテストは、「衣服作品」部門 46 点、「アイデア作品」部門 42 点、合計 88 点の応募があった。</p> <p>③ ECO+ものづくりプロジェクト（生活科学専攻）</p> <p>・3 年生を中心に 1 生から 4 生まで縦割りで活動している。地域の方にもものづくりの楽しさを教えながら、学生の企画力・コミュニケーション力がついた。</p> <p>次の委員会へ協力した。</p> <p>1. 岐阜県消費生活安定審議会委員 2. 岐阜市都市計画審議会委員</p> <p>3. 山県市児童福祉審議会委員 4. 山県市子ども・子育て会議委員</p> <p>・岐阜建築士会CPDプログラム評議会委員（富士）・岐阜県開発審査会委員（黒見）・岐阜市景観アドバイザー（黒見）・可児市都市計画審議会委員（黒見）・大垣市建築審査会委員（黒見）・山県市都市計画審議会委員（黒見）・岐阜市景観審議会委員（黒見）・日本建築学会岐阜支所運営委員（黒見）・ぎふ景観まちづくりファンド運営委員会委員（黒見）・岐阜県建築士審査会委員（大崎）・岐阜市開発審査会委員（大崎）・岐阜県都市計画審議会委員（大崎）・岐阜市都市計画審議会委員（大崎）・岐阜県建設工事総合評価会議委員（大崎）・岐阜市地球温暖化対策委員（大崎）・岐阜市建設工事総合評価審査委員（大崎）・岐阜県公害審査会調停委員（大崎）・愛知県建築審査会委員（大崎）等で活動協力を行い、地域との連携を推進した。</p> <p>②第 11 回わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテストを主催し、岐阜県内をはじめ新潟県、富山県、静岡県、愛知県などの高等学校から 137 件の応募があり高大連携を推進した。</p> <p>③わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテストでは、「ペットと暮らす」住まいをテーマに岐阜県内に実在する空き家を課題として、建築・インテリアの学びを持つ近隣の工業高等学校などに作品募集を行い 137 件の応募があった。</p>	<p>手づくり絵本コンクールチラシ</p> <p>伝統文化裁縫コンテストチラシ</p> <p>ECO+ものづくりプロジェクト報告書</p> <p>辞令他 1-4</p> <p>委託書</p> <p>わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテストチラシ、応募要項配布先一覧、応募課題</p> <p>わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテスト入賞作品集</p>

<p>④空間の使用用途に応じ、様々なインテリアコーディネート、空間づくりを実施することにより、インテリアデザイン教育の強化と教育成果の公表を進める。(住居学専攻)</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>④各務原市の空き家サブリース物件の報告会では、実際にリビングダイニングルームと寝室に家具を配置し、生活空間のイメージをわかりやすく伝えた。また、実習棟リフォームでは、リフォーム後に使用する家具のデザインを行い、連携をしている根羽村森林組合の協力のもと、家具制作を行った。</p>	<p>各務原空き家報告会資料等</p>
---	----------	--	---------------------

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【1 教育の質の向上】

学部名：家政学部，学科名 健康栄養学科

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>① カリキュラム・ポリシーに従って、コア・カリキュラムを見直し、系統的に学修指導を行う。特に管理栄養士に必要な学識、調理技術、集団行動能力、運営能力などを学修できるようにカリキュラム運営をする。</p> <p>② 実験・実習科目・卒業研究を通して科学的な能力を修得できるようにコア・カリキュラムを運営する。</p> <p>③ 食物栄養学会で学生が主体的に活動できるように、食物栄養学会の運営方法とその指導方法を整備する。</p> <p>④ 国試対策を4年間通して行うことと位置づけて、希望する進路に合わせた資格取得支援を充実させ、学修意欲の維持・向上を促す。</p> <p>⑤ アクティブラーニングを継続し、普遍的、社会的能力、経験などを含めた汎用的能力の育成を図る。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 学生の成績を集積し、支援に活用する。</p> <p>② 臨地実習先と連携し、出身地での実習を可能にするだけでなく、将来の職につなげられるよう実習内容を協議しながら運営する。</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 1人のアドバイザーが20人程度の学生を担当し、学科全体で情報共有しながら学生支援を充実させる。</p> <p>② 学生の学修履歴、ポートフォリオなど自己管理システムを構築する。</p>	<p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p>	<p>カリキュラム構成、ナンバリングに沿ったコア・カリキュラムの見直しをし、外部評価委員会で報告した。</p> <p>① に同じく、カリキュラム構成、ナンバリングに沿ったコア・カリキュラムの見直しをした。</p> <p>学生主体で食物栄養学会の活動（研修旅行、さぎ草祭活動、講演会、卒業研究発表等）を運営し、活動できた。</p> <p>学修状況に合わせて国家試験の年間指導計画を作成し、運営した。また、希望する進路に合わせて資格を取得できるよう支援した。</p> <p>実践型実習により汎用的能力を育成し、臨地・校外実習にて実社会の中で経験し、学修している。</p> <p>学年ごとに模試結果を集積し、面談資料として活用している。4年次には国家試験直前まで模試結果を参考に指導している。</p> <p>出身地の実習先に赴き、実習内容を協議しながら運営した。</p> <p>学科会議にて、アドバイザー発信による学生の情報共有をしている。</p> <p>国試対策や卒業研究で、各自の模試結果や研究の進捗状況等を保存し、国試対策・就職活動に活用した。</p>	<p>外部評価委員会報告資料</p> <p>① に同じ</p> <p>食物栄養と食文化 vol.9</p> <p>国家試験対策年間計画 各種資格取得者名簿</p> <p>臨地・校外実習の目的、 実習内容</p> <p>模試結果</p> <p>実習先一覧</p> <p>学科会議録</p> <p>卒論ポートフォリオ例</p>

【2 学術研究の推進】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>2 研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 若手研究者が研究を進める上で、経験及び発展させるために必要な支援体制の構築と共に、外部資金への応募を奨励する。</p> <p>② 外部資金獲得だけでなく、学会参加を奨励し、論文発表を推進する。</p> <p>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 計画的に調理学系、理化学系の研究設備のメンテナンス・入れ替えをし、研究支援する。</p> <p>② 学生の研究意欲を導くために、実験・実習設備を整備・充実する。</p> <p>③ 長寿健康栄養学センターの運営を継続し、研究・活動を発展させる。</p>	<p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>IV</p>	<p>ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業への共同研究を奨励をした。</p> <p>若手研究者の学会参加を奨励し、口頭発表や研究レポートの投稿等を通して経験を積ませた。</p> <p>給食管理実習室や調理学実習室、理化学実験室において、機能低下に伴う機器の更新を図った。</p> <p>給食管理実習室や調理学実習室、理化学実験室において、機能低下に伴う機器の更新を図った。</p> <p>健康・食品等に係る研究・啓発活動を実施し、報告書にまとめた。</p>	<p>共同研究資料</p> <p>日本栄養改善学会要旨 長寿健康栄養学センタ ー報告書 第4巻</p> <p>稟議書の控え</p> <p>稟議書の控え</p> <p>長寿健康栄養学センタ ー報告書 第4巻</p>

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>3 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 長寿健康栄養学センター、衣食住生活研究センターとともに美濃市、関市、山県市、岐阜市三輪地区などの自治体との連携を深めて、食育や地域産業振興につながる活動を拡充させる。</p> <p>② 長寿健康栄養学センターと連携し、食育や地域振興を目指して、地産地消を基本にした各種コンテストの内容を充実させる。</p>	<p>IV</p> <p>III</p>	<p>地域食材の活用にとどまらず、健康増進のための啓発活動を進めることができた。</p> <p>高校生朝ごはんコンテスト、お子さまランチコンテスト等多くのコンテスト・講習会を実施した。高校生朝ごはんコンテストはテレビや新聞にて紹介された。</p>	<p>2－(1)－② 長寿健康栄養学センター報告書 第4巻</p> <p>Web 資料 高校生朝ごはんコンテスト報告書</p>

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【1 教育の質の向上】

学部名：文化創造学部，学科名：文化創造学科

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①新しい文化を創造する高度な力の修得を目指し、体系的に専門性を獲得するための実践的な科目を配置する。</p> <p>②自己確立をめざす教養教育科目、専門的な学修の基礎となる学部共通科目や専門科目、関連する選択科目や資格関連科目で、実践的教育を体系的に編成して教育指導を行う。</p> <p>③ディプロマ・ポリシーに基づき、学位授与までの教育プロセスの管理を適切に行う。GPA 制度等を活用し、中間発表を課し、複数指導教員により学修及び研究の進捗状況をチェックし助言を行う。</p> <p>④アドミッション・ポリシーに基づき、学生の受け入れを推進する。</p>	<p>I 1 (1) ①</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅳ</p> <p>②</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅱ</p> <p>Ⅳ</p> <p>③</p> <p>Ⅱ</p> <p>Ⅳ</p> <p>④</p> <p>Ⅳ</p>	<p>ア：デジタルアーカイブによる文化の創造を実践的に学ぶ「特別プロジェクト（実習）」（デジタルアーキビスト）、「図書館活動演習」（司書）、「博物館実習」（学芸員）と各資格とも関連させた実践的学問を実施した。</p> <p>イ：漢籍古典研究、漢字作品創作等の科目の充実により、硬筆書写技能検定1級合格、第69回中日書道展に多数入選・入賞した。</p> <p>イ：また、これらの科目と第18回特別講演会（講師：野中吟雪、伊藤滋）を連携して実施し、学修意欲に繋げた。</p> <p>イ：実践的な科目でアニメージュ編集者の挑戦的授業「アニメの世界観」を実施した。</p> <p>イ：実践的な科目の観光地理Ⅲで「世界遺産『白川郷・五箇山の合掌造り集落』の観光的価値とは」、観光学総論で「地元の観光資源を学ぶ」、テーマパーク演習で「テーマパークを学ぶ～レゴランド研修～」、さらに「オーストラリア語学留学」を実施した。</p> <p>カリキュラム・ポリシーに次世代を担う子どもに必要なリテラシーを付け加え、新学習指導要領でも必要とされるプログラミング学習や情報機器を活用したICT教育を担う人材育成に取り組んだ。（初等）</p> <p>ア：カリキュラムマップにより、教養教育科目から学部共通、専門科目を体系的に編成している。</p> <p>ア：初年次教育のテキストを作成した。</p> <p>EGGプランに従って、理論と実践の往還を意識し専門性と実践力をともに育む教育指導を行った。4年間にわたり体系的に学校などにおけるインターンシップを実施し実践力を培った。（初等）</p> <p>ア：GPA制度の活用はまだ十分とはいえないが、博物館実習等の実践科目において、GPA基準を設け、実習参加の際の指針としている。</p> <p>保育・教育実習に際しては、GPAのスコア及び進路への意欲を評価し参加の可否を審査した。基準周辺で実習に際して不安感のある学生には個別指導を行った。（初等）</p> <p>専攻の教員が県内高等学校を訪問してアドミッション・ポリシーを始め学びの特色をPRした。その際、学生が作成した本学での学生生活を記したイラストマップを作成し広報に役立てた。（初等）</p>	<p>カリキュラム・ポリシー</p> <p>https://gijodai.jp/syodou/info/2019/05/1614 https://gijodai.jp/syodou/info/2019/06/1713 https://gijodai.jp/syodou/info/2019/06/3020 https://gijodai.jp/syodou/info/2019/11/1017 https://gijodai.jp/kanko/info/2019/11/1310 https://gijodai.jp/kanko/info/2019/06/3012 https://gijodai.jp/kanko/info/2020/01/2110 https://gijodai.jp/kanko/info/2020/02/2709</p> <p>カリキュラム・ポリシー、ICT教育の実践状況</p> <p>カリキュラムマップ 初年次テキスト</p> <p>カリキュラム一覧、EGGプラン概念図と実践授業概要</p> <p>ディプロマ・ポリシー GPA資料 教育実習等への学生参加基準、大学学則（便覧）</p> <p>アドミッション・ポリシー、高校訪問担当者と訪問要領、専攻募集リーフレット、高校における体験授業一覧、スキルアップ講座要項</p>

<p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①全学的なマネジメント体制のもと、質の高い教育を実施するために適切な教員配置を行う。設備、機器、図書、教材、コンクール、各種資格取得、体験活動、姉妹校(沖縄女子短期大学)との連携等の教育環境を整備する。学生による授業評価と、教員による授業改善報告を行い、それらの評価結果を開示し、共有する。</p>		<p>高等学校における体験授業や入学予定者のスキルアップ講座など高大連携による高校教育と大学教育の接続を図った。特に、愛知県立佐屋高校とは連携協定を結び(2020. 3. 30)、高大接続による学生の受け入れシステムを作った。(初等)</p> <p>(2)</p> <p>①</p> <p>III ア: 高校生を対象にデジタルアーカイブクリエータ資格取得講座を開催し、在学生在が講師を務めた。 ア: 学生による授業評価の結果を専攻会議で共有し、問題点について検証し、改善に取り組んだ。</p> <p>III イ: 第18回全国書道展を実施し、14,328点(昨年比160点増)もの応募をいただいた。 イ: 第71回毎日書道展では、U23毎日賞受賞した。 イ: 令和元年度岐阜女子大学・大学院書法展を開催しました</p> <p>IV 各専修の主要資格に加えて、周辺領域の複数資格を取得できる副専門体制を整え、結果として、本年度卒業生の資格取得状況は、殆どが複数資格を取得できている。(初等) 全教員がコア・カリキュラムを中心に学生による授業評価を実施し、その自己評価の結果を専攻会議で改善に向けての協議をおこなった。(初等) 特別科目履修制度により本専攻の授業科目を沖縄女子短期大学の学生が履修をした。(初等)</p>	<p>等、佐屋高校との連携協定調印式</p> <p>専攻所属教員の授業評価結果一覧</p> <p>https://gijodai.jp/syodou/info/2019/09/2413</p> <p>https://gijodai.jp/syodou/info/2019/07/1020</p> <p>https://gijodai.jp/syodou/info/2020/03/1120</p> <p>副専門制度リーフレット、資格取得状況</p> <p>授業評価の結果</p> <p>特別科目履修制度概要と実績</p>
<p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>①学生への学修支援のための学修相談、卒業論文指導の体制、オフィスアワーの利用やアドバイザー制度の充実を図る。</p>		<p>(3)</p> <p>①</p> <p>III ア: 卒業論文は学生1名につき主査1名・副査2名で指導にあたる。教員はオフィスアワーを設け、学内グループウェア及びシラバス等に提示している。アドバイザーは担当学生の学修・生活面に留意し、専攻会議で情報共有している。</p> <p>III 各学年アドバイザー制度を生かした個人指導を行った。また、実技指導では個人指導を充実させた。卒業研究は、主査と副査による研究指導体制を作り、中間発表と卒論発表において口頭試問及び個別指導を行った。個別指導においては、ルーブリックを作成してパフォーマンス評価を行い、学生に還元した。(初等)</p>	<p>卒論指導・アドバイザー一覧、</p> <p>卒論指導・アドバイザー一覧 実技個人指導 ルーブリック評価表と中間発表個人評価票</p>

【2 学術研究の推進】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>2 研究に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①科学研究費補助金等の研究資金により、多様な研究成果を生み出し、基礎研究の基盤を充実させる。 研究活性化費により、特色ある研究を組織的に推進し、卓越した研究成果を創出する。 文化情報研究センター、デジタルアーカイブ研究所、沖縄カリキュラム開発研究センター、カリキュラム開発研究所などと連携して、特色ある研究を組織的に推進し、卓越した研究成果を創出する。</p> <p>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①全学的な研究推進戦略の見直しを行い、重点研究領域の研究を推進するため、適切に研究者を配置する。</p>	<p>2 (1) ① III III III</p>	<p>ア：デジタルアーカイブ研究所年報では、専攻教員が中心となり、デジタルアーカイブに関わる研究報告等を行っている。さらに、他大学の協力を得て査読付き論文誌デジタルアーカイブ研究報告を2018年度より発刊している。</p> <p>イ：学修支援資料デジタルアーカイブ委員会と連携して、「グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学教学マネジメント研究報告会～学生の学びの内容・活動の充実と質の保証を求めて～」を実施し、カリキュラム開発研究誌にまとめた。</p> <p>専攻の教育養成プログラム（EGGプラン）に基づき、共同研究を進めた。（初等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育に対応する資質を育むため、学生が主体となったデジタル教材の開発に取り組んだ。 ・ICT教育をコア・カリキュラムの授業に生かすため、専攻の教員対象のFDを開催し、授業方法を研究した。 ・学生の学修成果と教員の授業力の向上ため、学修ポートフォリオの活用とルーブリックによるパフォーマンス評価の研究を進め、教学マネジメント研究報告会で発表した。その成果を、4年次の卒業研究において導入するとともに、カリキュラム開発研究所と協力して成果を研究誌に発表した。 	<p>デジタルアーカイブ年報 デジタルアーカイブ研究報告</p> <p>岐阜女子大学カリキュラム開発研究 2019Vol.4 No.1</p> <p>小学校九九ドリル開発</p> <p>3月26日FD資料</p> <p>教学マネジメント研究報告会 発表要旨とルーブリック 研究誌「カリキュラム開発研究」</p>

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>3 その他の目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</p> <p>①本学の公開講座を中心に、地域教育振興に寄与するプロジェクト、コンテスト、コンクールを実施する。 地域の諸課題に取り組む調査研究を推進する。 文化情報研究センター、デジタルアーカイブ研究所、沖縄カリキュラム開発研究センター、カリキュラム開発研究所を設置し、得られた研究成果、知見を公開し知的資源の社会への還元をはかる。</p>	<p>II</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p>3</p> <p>(1)</p> <p>①</p> <p>ア：NPO 法人日本アーカイブ協会や企業と共同し、デジタルアーキビスト公開講座を開催し、本学教員が講師を担当した。</p> <p>ア：文化創造デジタル作品コンクールを実施し、地域教育振興に寄与した。</p> <p>ア：私立大学研究ブランディング事業による「飛騨の匠デジタルアーカイブ」「岐阜市デジタルアーカイブ」等について、高山市、岐阜市等と連携を行い、地域の課題解決を視野に入れたデジタルアーカイブ研究活動を行った。今後も継続的な取り組みが必要。</p> <p>イ：学修支援資料デジタルアーカイブ委員会と連携して、沖縄女子短期大学・岐阜女子大学カリキュラム開発研究所との共催で「グランドデザイン 2040 をめざす岐阜女子大学教学マネジメント研究報告会～学生の学びの内容・活動の充実と質の保証を求めて～」を実施した。</p> <p>イ：第9回の英語キャプションコンテスト、第10回フォトコンテストを実施した。</p> <p>イ：長良川鉄道（株）との連携協定が結ばれ、観光列車「ながら」で行く郡上駅前踊りイベント、観光列車「ながら」で行くピアホール「ながら」&郡上八幡駅前おどりを実施した。</p> <p>教員免許状を取得する公開講座を7免許種別で開催した。（初等） 岐阜市及び山県市において、両市の要請を受けて教育サポーターとして児童の学習支援や特別活動に参加をした。（初等） 1～3年の学生全員がミュージカル活動に取り組み、7月には子ども向け、11月には子どもを含めた地域住民に向けた公演を行い、学修の成果を社会へ還元した。 専攻主催の「第5回紙しばいコンテスト」を開催し、3県10校108作品の応募があった。第4回に比べ応募高校が増加した。（初等） 授業（保育・幼稚園実践演習）において、学修の成果を地域の未就学児及びその保護者に公開した。（初等） 卒業研究において、地域資源のデータベースを作成し、地域の小学校でその成果を還元した。（初等）</p>	<p>デジタルアーキビスト公開講座チラシ</p> <p>文化創造デジタル作品コンクールWEBサイト</p> <p>私立大学研究ブランディング事業岐阜女子大学WEBサイト</p> <p>研究企画報告書(岐阜市デジタルアーカイブ)</p> <p>https://gijodai.jp/kanko/info/2019/07/415</p> <p>https://gijodai.jp/kanko/info/2019/07/416</p> <p>https://gijodai.jp/kanko/info/2019/07/1515</p> <p>https://gijodai.jp/kanko/info/2019/08/1909</p> <p>公開講座の実績、 地域連携活動(教育サポーター制度) ミュージカルの取り組み</p> <p>紙しばいコンテストの取り組み</p> <p>保育・幼稚園実践演習の実績</p> <p>卒業研究要旨</p>

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【1 教育の質の向上】

大学院：文化創造学研究所

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>2 大学院の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①新しい文化を創造する高度な力の修得を目指し、体系的に専門性を獲得するための実践的な科目を配置する。</p> <p>②講義と演習を適切に組み合わせた高度な授業の中で研究教育指導を行う。教育効果を高めるため、一部の授業を集中、遠隔で行う。複数指導教員体制を継続する。</p> <p>③ディプロマ・ポリシーに基づき、学位授与までの教育プロセスの管理を適切に行う。中間発表を課し、複数指導教員により学修及び研究の進捗状況をチェックし助言を行う。</p> <p>④アドミッション・ポリシーに基づき、働きながら学ぶ社会人の受け入れを推進する。引き続き秋季入学を実施する。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①大学院委員会を設置し全学的なマネジメント体制のもと、質の高い教育を実施するために適切な教員配置を行う。設備、機器、図書、教材等の教育環境を整備する。学生による授業評価を行い、その結果を踏まえて不断に授業改善を実施する。</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>①通学・通信教育課程の学生への学修支援のための学修相談会、修士論文指導の体制、及びメンター制度の充実を図る。</p>	<p>IV</p> <p>IV</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>IV</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p>○科目におけるガイドブックを作成し、各時間の具体的な達成目標を明示し、それに沿った授業を展開した。</p> <p>○デジタルアーカイブ専攻において、昨年度カリキュラムの見直しを行いより実践的で高度化を図った。</p> <p>○アクティブラーニングの手法を大学院の授業にも適応し、主体的・対話的な深い学びの実現を行っている。</p> <p>○授業は社会人が学びやすいように集中、遠隔で行い、複数指導教員体制を継続している。</p> <p>○メンター並びに修論の指導教官により、個々の院生に適応した学修指導を行っている。</p> <p>○特に修士論文指導においては、中間発表を課すことにより外部の評価も取り入れながら助言を行った。</p> <p>○働きながら学ぶ社会人に配慮し、修士論文指導もなるべく居住する地区に赴き指導するなど、社会人の学修しやすい学習環境並びに指導に配慮している。秋季入学についても継続して実施している。</p> <p>○大学院委員会を随時開催し、教育環境並びに指導用の課題を検討し、より質の高い教育を実施している。</p> <p>○実施年1回の院生による授業評価を計画的に実施し、その結果を検討し授業に反映している。</p> <p>○学修相談会、修士論文指導を積極的に行っている。特に、修士論文指導については、ZOOM等の遠隔学習システムを整備し、院生が家庭にいても修士論文指導が受けることができる環境を整備した。</p>	<p>大学院の通信教育課程ガイドブック</p> <p>カリキュラム・ポリシー（大学院便覧）</p> <p>カリキュラム一覧</p> <p>修論指導担当者一覧</p> <p>通信教育課程ガイドブック</p> <p>ディプロマ・ポリシー 大学院学則（便覧）</p> <p>アドミッション・ポリシー（大学院便覧）</p> <p>募集要項</p> <p>大学院学則（便覧）</p> <p>授業改善に関わる院生アンケート報告書</p> <p>修論指導・メンター担当者一覧</p> <p>学修相談会報告書</p>

【2 学術研究の推進】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>2 研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①科学研究費補助金等の研究資金により、多様な研究成果を生み出し、基礎研究の基盤を充実させる。 研究活性化費により、特色ある研究を組織的に推進し、卓越した研究成果を創出する。</p> <p>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①全学的な研究推進戦略の見直しを行い、重点研究領域の研究を推進するため、適切に研究者を配置する。</p>	<p>III</p> <p>III</p>	<p>○科学研究費補助金等の研究資金の取得は少ないが、私立大学研究ブランディング事業費で、全学的な大学院の特色のある研究を推進している。</p> <p>○デジタルアーカイブを全学的な重点研究領域と位置づけ、私立大学研究ブランディング事業の研究を全額的に展開した。</p>	<p>科研費応募者一覧 科研費受領額一覧</p> <p>私立大学研究ブランディング事業報告書</p>

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>3 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 本学の公開講座を中心に、地域教育振興に寄与するプロジェクトを推進する。 地域の諸課題に取り組む調査研究を推進する。 デジタルアーカイブ研究所を設置し、得られた研究成果、知見を公開し知的資源の社会への還元をはかる。</p>	<p>IV</p>	<p>○私立大学研究ブランディング事業により、高山市、郡上市、沖縄、岐阜市など地域の連携を図っている。</p> <p>○地域に根差し地域社会に貢献する大学として、本学独自で育んできたデジタルアーカイブ研究を活用し、地域資源のデジタルアーカイブ化とその展開によって、伝統文化産業の活性化などの地域課題の実践的な解決や新しい文化を創造できる人材育成を行い、地域の知の拠点となる大学を目指している。</p> <p>○そのためには、地域で何が課題とされ、何が必要にされているのかを把握する必要がある。そこで今年度、本学が所在する岐阜市と包括連携協定を締結した。</p> <p>○デジタルアーカイブ研究所を設置し、研究成果の報告書を作成し、広く知見を公開し知的資源の社会への還元を図った。</p>	<p>公開講座一覧</p> <p>社会との連携事例の提示（連携 HP） (https://gijodai.jp/chiki-renkei/kigyuu.html)</p> <p>研究成果（ブランディング HP） (http://digitalarchiveproject.jp/)</p> <p>和田家おうらい</p> <p>岐阜市との地域活性化に関する包括連携協定書</p>

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【2 学術研究の推進】

大学院：生活科学研究科

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①生活科学研究科で取得可能な専修免許状（中高家庭及び栄養教諭）を取得しての就職実績、キャリアアップ実績をつくることで取得希望及び取得実績の拡充を図る。</p> <p>②応用栄養学分野等において病院や企業での長期の臨地実習（インターンシップ）の単位化に向け、研究科委員会等で検討する。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①生活科学研究科生活科学専攻に設置している生活科学分野及び応用栄養学分野をそれぞれ専攻化することを念頭に生活科学研究科委員会において検討を進める。</p> <p>②衣食住生活研究センターとの連携を強化し、学際的な研究テーマに取り組める環境づくりを図る。</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>①資格取得、卒業後の進路など総合的な相談体制の充実に努める。 また、希望に応じTA, RAなどとして採用し、経済面からの支援を行う。</p>	<p>「I」</p> <p>「I」</p> <p>「II」</p> <p>「I」</p> <p>「II」</p>	<p>①平成 27 年に家庭科専修免が 2 名（中高 1 名、高 1 名）、平成 29 年に家庭科専修免が 1 名（中高）以降は専修免取得者は（希望者も）いない。栄養教諭専修免も含め早期履修者を中心に専修免取得を促進する必要がある。</p> <p>②社会人以外の入学者は早期履修者で、1 年在籍での修了を希望するものがほとんどで、なかなか長期のインターンシップを希望する学生がいないが、研究科委員会にて制度的な枠組みについて議論したい。</p> <p>①二専攻化するには入学者が少ない状況が続いているが、平成 30 年度～令和元年度と健康栄養学科の早期履修生から入学者が続いており、この状況をより拡大していきたい。</p> <p>②入学してくる学生の希望研究テーマが学際的なテーマではなく取り組めていないが、まずは衣食住研究センターと協議を行う予定である。</p> <p>①健康栄養学科の早期履修生から入学した学生には健康栄養学科の助手として採用されているものもいる。今後このようなケースを増やし、経済的な支援につなげていきたい。</p>	

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>3 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</p> <p>①大学院生活科学研究科の社会人の積極的受け入れ、公開講座等の開催に努める。</p>	<p>「Ⅱ」</p>	<p>①平成30年度には社会人1名の入学者があったが、結果的には継続困難で退学に至っている。令和元年度は社会人入学者はいなかったが、令和2年度には1名の入学者を受け入れており、次年度に向けて社会人の受け入れをさらに促進したい。公開講座も開催できていないが、今後衣食住生活研究センター等との連携により社会貢献につながる講座等を開催したい。</p>	

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【2 学術研究の推進】

センター・研究所名：地域文化研究所

中期計画	進捗状況の記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>2 研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①大学教員・学生の地域文化に関する調査研究についての情報を発信し、主体的な調査研究への取り組みを支える。</p> <p>②研究紀要『地域文化研究』の原稿について学内査読・学外査読の二重査読体制を継承・保持するとともに、学内外からの寄稿を呼びかける。</p> <p>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①地域資料の発刊情報を多方面から集め、資料収集に努める。</p> <p>②地域の人物や歴史・文化に関する調査を実施し、研究発表を行う。</p> <p>③収集・調査したデータを教材化の基礎資料として公開する。</p>	<p>Ⅲ</p> <p>Ⅱ</p> <p>Ⅱ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p>	<p>文化創造学研究科の院生の研究について、資料および助言・指導を行った。その成果である映像作品作成に協力した。</p> <p>研究紀要を発刊したが、論文の掲載がなかった。</p> <p>情報の収集につとめたが、資料収集については一部にとどまった。</p> <p>岐阜県の偉人について共同調査をおこない、報告会に参加した。また、歴史文化についても調査を継続している。</p> <p>②のうち、岐阜県の偉人については、本を刊行した。</p>	<p>院生映像作品</p> <p>報告会レジュメ</p> <p>『報道記事から見る岐阜の偉人たち』</p>

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>3 その他の目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</p> <p>①地域文化の調査研究の成果を地域振興に活用していく方法を問う文化講演会あるいはシンポジウムを開催する。</p> <p>②各種団体と連携し、生涯学習に関する活動を実施する。</p> <p>③地方自治体の要請に応え、地域資料に関する情報の提供、あるいは編集・刊行事業に対して監修・執筆等の協力をする。</p>	<p>III</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p>岐阜学会と連携し、春・秋に文化講演会を実施、シンポジウムを開催した。</p> <p>岐阜学会と連携して特別講座を開催、岐阜市高齢者大学の講座担当、能村洋三顕彰会の講座を担当した。</p> <p>1 神戸町、山王まつり記録作成調査報告書執筆（継続） 2 輪之内町、輪之内検定監修、輪之内の歴史の講演を担当、海津マップリーフレット監修 3 岐阜市、「麒麟がくる」観光活用ワーキンググループ（稲葉山城ワーキンググループ）で指導 4 美濃市、『美濃市史』編集委員長として監修（継続） 5 海津市、海津市歴史民俗資料館の運営委員、講演会を担当 6 山県市、「麒麟がくる」活用委員会委員</p>	<p>岐阜学会会報第47・48号、レジュメ</p> <p>特別講座資料、高齢者大学講座資料、野村洋三講座資料</p> <p>神戸調査報告書執筆依頼書 輪之内検定問題・講演レジュメ、マップリーフレット 稲葉山城ワーキンググループ会議資料 美濃市史資料編目録項目一覧 海津市講演会資料 山県市活用推進協議会名簿</p>

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【1 教育の質の向上】

センター・研究所：文化情報研究センター・デジタルアーカイブ研究所

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①文化創造学部「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げられた「文化の創造」を図り、「実践的 学問」を修得するための教育課程を支援する。</p> <p>②教員の研究にかかわる「デジタルアーカイブ研究所所報、報告、テクニカルレポート」などデジタルアーカイ ブ資料の提供、論文作成のための資料集の提供、研究誌「文化情報研究誌」掲載支援など、教員の研究論文作 成支援を行う。</p> <p>③地域文化、伝統文化、歴史、民俗、自然、教育など幅広い分野を素材としたデジタルアーカイブを推進する。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①文化情報研究センターが有する、カメラ、パソコン、スキャナー、デジタル編集機器等を充実し、実践的な教 育を行う。</p> <p>②文化情報研究センターが有する、遠隔教育システムを充実し、大学、文化情報研究センター、沖縄サテライト 校をネットワーク化し遠隔教育を進める。</p>	<p>IV</p> <p>IV</p> <p>IV</p> <p>III</p> <p>IV</p>	<p>①アーカイブ専修・デジタルアーカイブ専攻の全学生および大学院生（通 学・通信）、沖縄サテライト校在籍学生（遠隔講義）を対象に、文化情報 研究センターの機材を活用して実践的な教育活動を継続して実施した。</p> <p>②文化情報研究センターの機材を活用して実践的な教育活動を中心とし た文化情報研究誌を継続して発刊しており、今年度はVol. 21. No. 1～2 の2冊を発刊した。また、他大学の協力を得て査読付きデジタルアーカ イブ研究報告 Vol. 2 No. 1 を刊行した。</p> <p>デジタルアーカイブ in 岐阜を2014年より継続的に開催しデジタルアーカ イブの振興を図っている。2020年2月11日に私立大学研究ブランディ ング事業報告会として開催し、基調講演と「デジタルアーカイブ活用研究 会」、「デジタルアーカイブ研究会」、「デジタルアーカイブ実践研究会」 の3テーマで研究発表が行われ述べ340名が参加した。</p> <p>文化情報研究センターの時代の変化に対応した機器の充実を毎年、図って いる。昨年はプリンター、スキャナー、ネットワーク関連の機器の充実を 図ったが、今年度は複合機、webカメラ等の整備をおこなった。</p> <p>日本高等教育評価機構による平成26年度大学機関別認証評価報告書の「教 育環境の整備」において岐阜女子大学の「優れた点」として、「○『サテラ イトキャンパス』の『文化情報研究センター』の『デジタルミュージアム』 は遠隔教育システムにより他の地域と同時開講が可能となり、公開講座等 の種々の活動に活用している点は高く評価できる。」とされ、類例の無い ユニークな教育活動が高く評価され、今年度も同様の規模で実施した。</p>	<p>年間授業計画一覧</p> <p>文化情報研究誌 Vol. 21. No. 1～No. 2 デジタルアーカイブ研 究報告 Vol. 2 No. 1 第13回 デジタルアー カイブ研究会-研究会論 文集 第14回 デジタルアー カイブ研究会-研究会論 文集</p> <p>私立大学研究ブランデ ィング事業報告会チラ シ</p> <p>R1 購入機材一覧</p> <p>R1 公開講座一覧</p>

<p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>①高校生へのデジタルアーカイブ公開講座の実施、学部生・院生への各種実習（デジタルアーカイブ演習、博物館実習など）の支援など、入学前から卒業後までを視野に入れた各種支援策の充実を図る。</p> <p>②学部生の卒業論文、院生の修士論文作成支援を行う。</p>	<p>III</p> <p>III</p>	<p>高校生を対象とした準デジタルアーキビスト講座, デジタルアーカイブクリエータ講座を開講した。学生を対象とした各種公開講座を継続的に開催した。</p> <p>昨年度までと同様に、卒論, 修論作成に当たり指導教員・メンターとの調整を実施, 学生のデジタルアーカイブ作成機材活用, 修士論文要旨集作成を実施した。</p>	<p>R1 公開講座一覧</p> <p>R1 修士論文要旨集</p>
--	-----------------------	--	------------------------------------

【2 学術研究の推進】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①文化情報研究センターの使命を実現するため3つの機能を充実し、相互に連携させた活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルアーカイブ研究所 ・遠隔教育部門（遠隔教育・公開講座など） ・デジタルミュージアム <p>②NPO 法人日本デジタルアーキビスト認定機構、NPO 法人日本アーカイブ協会、デジタルアーカイブ学会、デジタルアーカイブ研究会、日本教育情報学会、との連携を図り、デジタルアーキビスト養成の拠点にする。</p>	<p>IV</p> <p>IV</p>	<p>① 研究成果を文化情報研究誌だけでなく、2017年よりデジタルアーカイブ研究所年報を刊行した。研究資料としてデジタルアーカイブ研究所テクニカルレポート Vol.5 No.1 を継続発刊した。さらに、他大学の協力を得て査読付きデジタルアーカイブ研究報告 Vol.2 No.1 を刊行した。</p> <p>②デジタルミュージアムは、「木田宏オーラルヒストリー」デジタルアーカイブ再構成するなどコンテンツを継続的に整理している。</p> <p>③地域文化デジタルアーカイブ「和田家おうらい」を、TRC-ADEAC（株）クラウドデジタルアーカイブシステムより、クリエイティブコモンズライセンス CC-BY で提供を、日本語だけでなく、英語、韓国、タイ、簡体字、繁体字の多言語化を図り提供している</p> <p>④NPO 法人日本デジタル・アーキビスト資格認定機構と連携してデジタルアーキビスト、準デジタルアーキビスト講座を開催した。</p> <p>⑤ 高校生を対象に開催したデジタルアーカイブクリエイター資格取得講座に3名の受講生があった。</p> <p>⑥学術連携活動としてデジタルアーカイブ研究会第13回を11月23日に開催し9名が発表し、参加者は58名であった。2月11日の私立大学研究ブランディング事業報告会は、午前中の基調講演等(165名)と「デジタルアーカイブ活用研究会」、「第13回デジタルアーカイブ研究会」、「デジタルアーカイブ実践研究会」3テーマで研究発表が行われ、札幌学院大学、沖縄サテライト校を繋いで実施した。17名が発表し、参加者は175名であった。</p> <p>⑦デジタルアーカイブ研究機関連絡会が東京大学を中心に2016年6月に結成された。当初より本学も参加し、人材養成について多くの提案を行っている。</p> <p>⑧デジタルアーカイブ振興を産学官・全国レベルで図るため、「デジタルアーカイブ学会」の設立を東京大学、国立情報学研究所、岐阜女子大学が中心となって準備を進めた。その結果、2017年4月15日に東京大学を事務局として設立した。本学から役員に顧問、理事（人材養成部会長）、評議員3名が参画し運営に当たった。また、本学を会場にデジタルアーカイブ学会と共催で2回のデジタルアーカイブ研究会を開催するなど、研究組</p>	<p>文化情報研究誌 Vol. 21. No. 1～No. 2 デジタルアーカイブ研究所年報 2018 年 テクニカルレポート Vol. 5 No. 1 デジタルアーカイブ研究報告 Vol. 2 No. 1</p> <p>「和田家おうらい」Web ページ https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/2120155100</p> <p>R1 年度 DA 資格取得者数 R1 年度日本アーカイブ協会資格取得者数</p> <p>第13回 デジタルアーカイブ研究会-研究会論文集 第14回 デジタルアーカイブ研究会-研究会論文集</p>

<p>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①文化情報研究センターの中核的機能を担い、日本で最初に設置した「デジタルアーカイブ研究所」の充実を図る。</p> <p>②学部、研究科との連携を深め、遠隔教育・公開講座等を行う遠隔教育の充実を図る。</p>	<p>IV</p> <p>III</p>	<p>織の発展と社会的認知を継続的に行っている。</p> <p>2015年2月11日デジタルアーカイブ研究所を開所し研究活動を推進している。本年度は私立大学研究ブランディング事業報告会として開催し、340名が参加した。2回のデジタルアーカイブ研究会、研究所年報、テクニカルレポートを作成、また、2018年より他大学の協力を得て査読付きデジタルアーカイブ研究報告 Vo2.1 No.1 を刊行した。さらに、デジタルアーカイブ学会等全国の関係研究機関と連携するなど、実践的な研究を継続的に進めた。</p> <p>遠隔教育や教師教育・教材開発部門の開設に向け研究活動, 実践活動を継続して実施するとともに、「社会人のための履修証明書プログラム」としてCAI教育による「デジタルアーキビスト資格養成講座」を開始し15名に証明書を出した。</p>	<p>文化情報研究誌 Vol. 21. No. 1～No. 2 デジタルアーカイブ研究所年報 2018 年 テクニカルレポート Vol. 5 No. 1 デジタルアーカイブ研究報告 Vol. 2 No. 1</p> <p>令和元年度社会人のための履修証明書プログラム募集要項</p>
--	----------------------	--	---

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>3 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</p> <p>①デジタルアーカイブの幅広い地域、世代への普及を目指し、デジタルアーカイブ研究会およびデジタルアーカイブコンクールなど各種コンクールの実施を支援する。</p> <p>②各種公開講座を実施し、社会人の資格取得支援、再教育を支援する。</p> <p>③文化情報研究センターの立地を活かし、公開講座、大学院への社会人入学等を積極的に展開し、地域への社会貢献を行う。</p>	<p>IV</p> <p>IV</p> <p>III</p>	<p>① 2月11日に私立大学研究ブランディング事業報告会として開催し、基調講演と「デジタルアーカイブ活用研究会」、「デジタルアーカイブ研究会」、「デジタルアーカイブ実践研究会」の3テーマで研究発表が行われ述べ340名が参加した。</p> <p>②デジタルアーカイブ研究会を2回、デジタルアーカイブコンクールや全国書道展の実施を支援した。</p> <p>③ 企業デジタルアーカイブ実践研究及び大学院生の研究対象として本学に有益であることから、ヤマハ発動機㈱のデジタルアーカイブ化を支援するため、コンサルティング契約を一昨年に締結し、今年度は「企業デジタルアーカイブ研究に関する産学連携協定」として継続した。</p> <p>① デジタルアーキビスト資格取得のための社会人履修プログラムを実施し、全国から15名の参加があった。</p> <p>② デジタルアーカイブ研究会を2回開催し、全国から117名の参加があった。</p> <p>①日本アーカイブ協会と共催した準デジタルアーキビスト取得講座8回及びデジタルアーキビスト取得講座2回、社会人のための履修証明書プログラムを1回開催し、全国的な社会人のリカレント教育を継続的に推進した。</p> <p>②公開講座を多数開催した。</p> <p>③放送大学連携による博物館実習講座を開催し、全国から15名を受け入れた。社会人の学習ニーズに対応し、全国で唯一、組織的かつ大量に博物館実習生を受け入れた。また、本学教員が放送大学の2講座を当センターで実施した。</p> <p>④教員免許状更新講習を文化情報研究センター中心に開催し、受講者数対面授業272名、通信教育459名が受講した。</p>	<p>私立大学研究ブランディング事業報告会チラシ</p> <p>第13回 デジタルアーカイブ研究会-研究会論文集</p> <p>第14回 デジタルアーカイブ研究会-研究会論文集</p> <p>企業デジタルアーカイブ研究に関する産学連携協定</p> <p>令和元年度社会人のための履修証明プログラム募集要項</p> <p>第13回 デジタルアーカイブ研究会-研究会論文集</p> <p>第14回 デジタルアーカイブ研究会-研究会論文集</p> <p>令和元年度社会人のための履修証明プログラム募集要項</p> <p>令和元年デジタルアーキビスト資格取得講座開設日程</p> <p>R1年度DA資格取得者数R1開講座一覧</p> <p>教員免許状更新講習受講者数一覧</p>

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【2 学術研究の推進】

センター・研究所名：衣食住生活研究センター

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>1. 衣食住生活研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 以下の生活文化に関する研究・調査活動を組織的に支援し、地域社会の生活文化の発展に寄与する。</p> <p>1. 生活基礎調査</p> <p>2. 生活素材研究</p> <p>3. 新規生活用品の開発研究</p> <p>② 衣食住生活研究に関する学術論文誌を発行し、研究成果を社会に提供するとともに、一層の研究推進を図る。</p> <p>(2) 衣食住生活研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 衣食住生活に関する様々なデータを蓄積するためのシステムを構築し、管理・公開する。</p> <p>② 各分野において学科や個々の教員間において、共同研究が図れるよう、体制を整備・充実させる。広報活動を含め協働して、各種コンテスト・コンクールの開催推進し、充実させる。</p> <p>2. 学生の地域実践活動に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 衣食住生活を通じた地域との連携・協力を強化・拡大し、専門分野における実践教育の機会を増やす。</p> <p>② 地域における衣食住生活教育における実用性の高い教材開発と活用を推進する。</p>	<p>Ⅲ</p> <p>Ⅱ</p> <p>Ⅱ</p> <p>Ⅳ</p> <p>Ⅳ</p> <p>Ⅲ</p>	<p>生活文化に関する研究・調査活動（生活基礎調査、生活素材研究、新規生活用品の開発研究）が推進されるよう支援を行った。また、研究成果を「衣食住生活研究・活動レポート」で県内高等学校初め地域社会に広く還元した。</p> <p>学術論文誌「衣食住生活研究」については、投稿申し込み1本のため次年度に発刊することとした。</p> <p>衣食住生活に関する様々な活動のデータ化を行い、管理した。岐阜女子大学ホームページ内の専用サイトから発信が十分行えなかった。</p> <p>教員間で共同研究するための活動支援を行うとともに、各学科専攻で協働して、高校への情報発信計画を作成し、発送を行った。1年生対象に杉山涼子氏による「自己探求」の講座を開催した。</p> <p>近隣市町村からの要請を受け、学生の実践活動のフィールドとして地域の課題解決のための取組を推進した。</p> <p>衣食住生活教育活動は、各学科専攻・教員において実施されており、教材開発や活用も図られている。</p>	<p>・衣食住生活研究・活動レポート第4号</p> <p>・衣食住生活研究・活動レポート第4号</p> <p>・各種コンテスト・コンクール案内送付文書（衣食住まとめて配信）</p> <p>・各学科専攻の報告書（生活科学研究会誌）</p> <p>・衣食住生活研究・活動レポート</p>

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>3. 地域貢献に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 地域と大学をつなぐパイプ役として、衣食住生活に関する地域の課題や研究依頼を受け、学内への協力を要請し、解決を図る。</p> <p>② 地域住民を対象に、衣食住生活文化に関する公開講座や講演会を定期的に開催する。</p> <p>③ 学術論文誌やレポートを発行し、衣食住生活に関する教育・研究成果を社会に提供する。</p>	<p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p>	<p>近隣市町からの要請による課題解決に向けた課題取組みなどを受け各学科専攻で推進している。</p> <p>地域住民を対象とした公開講座や講習会などを各学科専攻で開催した。ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 2019 年度公開講座「岐阜に生きる岐阜と生きる」において、「家庭科教育と岐阜アパレル」と題して実施した。</p> <p>衣食住生活研究・活動レポート第4号を発行し県内及び関係高等学校へ送付した。</p>	<p>・各学科報告書 (生活科学研究会誌)</p> <p>・公開講座の開催記録 ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 2019 年度公開講座「岐阜に生きる岐阜と生きる」</p> <p>・衣食住生活研究・活動レポート第4号</p>

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【2 学術研究の推進】

センター・研究所名：長寿健康栄養学センター

中期計画	進捗状況の記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>1. 健康長寿の研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 長寿健康栄養学研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>①以下の長寿・健康・栄養に関する研究・調査活動を支援し、地域社会の健康長寿に寄与する。</p> <p>1. 長寿・健康に関する疫学的調査</p> <p>2. 栄養学的研究</p> <p>②長寿健康栄養学に関する活動報告書を発行し、研究・活動の成果を公開する。</p> <p>(2) 長寿健康栄養学研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①長寿・健康・栄養に関する様々なデータを蓄積し、一元管理する。</p> <p>②長寿・健康・栄養の研究・活動において、学内外で共同研究が図れるよう支援する。</p> <p>2. 地域との連携による実践活動に関する目標を達成するための措置</p> <p>①地域との連携・協力を拡充し、専門分野における実践教育の機会を増やす。</p> <p>②実践性の高い専門教育で長期インターシップを継続して実施する。</p> <p>③地域における長寿・健康・栄養に関する研究・活動から、疾病予防や介護予防のための食育や教育活動における実用性の高い教材開発と活用を図る。</p>	<p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅱ</p> <p>Ⅲ</p>	<p>地域の特産品を用いた商品開発や沖縄の健康に関する調査を進めている。</p> <p>継続して報告書を発行した。</p> <p>栄養学的情報を収集し、データを蓄積するためのシステムの構築と管理に向けて取り組んでいる。</p> <p>教員間で協力して開催するセミナーを支援した。 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業で他学との共同研究を推進した。</p> <p>料理教室、セミナー等実践教育を予定通り開催し、実践教育の機会を提供できた。</p> <p>実践性の高い長期インターシップを計画していたが、希望する学生がいなかったため、実施できなかった。</p> <p>教材開発のために各種セミナーを記録し、保管した。</p>	<p>長寿健康栄養学センター報告書 第4号</p> <p>長寿健康栄養学センター報告書 第4号</p> <p>長寿健康栄養学センター報告書 第4号 共同研究申請書類</p> <p>長寿健康栄養学センター報告書 第4号</p> <p>長寿健康栄養学センター報告書 第4号</p>

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>3. 地域貢献に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 食や健康、長寿に関する地域の課題を模索し、地域とともに解決を図る。</p> <p>② 「食に関する推進事業」等公的事業の計画に基づき、地域と連携して活動する。</p> <p>③ 地域住民に対し、健康・栄養に関するセミナー等を継続開催し、これまでの成果を生かして取り組みを展開する。</p> <p>④ 活動報告書を発行し、長寿・健康・栄養に関する研究・活動の成果を社会に発信する。</p> <p>⑤ 食育や地域振興を目指して、地産地消を基本にした各種コンテストを地域と協働して開催する。</p>	<p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p>美濃市の特産品である仙寿菜の共同研究及び開発を実施した。そのほか山県市から依頼された健康増進事業等に協働し、地域の課題解決に貢献した。また沖縄県の健康寿命を延伸するための調査を昨年引き続き実施した。</p> <p>公的な食に関する推進事業として、山県市健康介護課と連携し、山県市・岐阜女子大学コラボ事業を共同運営した。</p> <p>料理教室、セミナー等を継続開催できた。昨年に続き沖縄県民の食生活調査を実施した。</p> <p>継続して報告書を発行した。</p> <p>地産地消を基本にしたコンテストを外部機関と協働して開催した。</p>	<p>長寿健康栄養学センター 報告書 第4号</p> <p>長寿健康栄養学センター 報告書 第4号</p> <p>長寿健康栄養学センター 報告書 第4号</p> <p>長寿健康栄養学センター 報告書 第4号</p> <p>長寿健康栄養学センター 報告書 第4号</p>

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【1 教育の質の向上】

沖縄カリキュラム開発研究センター

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 沖縄カリキュラム開発研究センターに、学部・大学院と連携したカリキュラム開発、デジタルアーカイブ教材開発の研究成果を利用した教育支援システムを構成し、学生・院生の学修支援を推進する。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 沖縄県教育委員会・教育センターおよび実践者等の教育研究協力者と大学教員で教育研究が可能な組織化を行い、沖縄地域文化のデジタルアーカイブを構成し、教育実践者・学生・院生が共同利用可能となる学生指導のシステムを構築する。</p> <p>・学生・院生への ICT 等も含めた新しいカリキュラム開発の実践力の育成システムの整備</p> <p>・デジタル教科書をはじめ、教材のデジタルアーカイブ開発の実践力を育成する教育体制の整備</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 沖縄サテライト校にデジタルアーカイブ関連のデータベースを構築する。</p> <p>② 実践者と学生・院生の研究体制(沖縄デジタルアーカイブ研究会)の組織化を行う。</p>	<p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅱ</p> <p>Ⅱ</p>	<p>① デジタルアーカイブ開発、教材開発、教育実践などの機会を設け、卒論・修論作成の支援を行った。</p> <p>① 沖縄地域文化のデジタルアーカイブ化を進めるため、「沖縄おうらい」の内容充実に向けた記録活動を行った。</p> <p>・大学院の授業科目「教育実践課題研究」では、現場の先生方や院生らによる共同研究の場を設け、連携しながら実践・研究を行った。</p> <p>・学部の授業科目「教材リサーチ」では、デジタル機器、モバイル端末などを活用したデジタル教材開発の研究を行った。</p> <p>・学部の授業科目「基礎演習」「応用演習」では、学生の勤務校などの協力を得て、デジタル記録と分析をとおした授業実践記録と報告を行った。</p> <p>① これまでに収集した沖縄の地域文化資料のデジタルアーカイブの開発と成果の公開に向けて Web サイトの構築を進めている。動画資料などを含めたデータベース化には課題が残る。</p> <p>② 学生や院生と共同で、沖縄の地域資料のデータベース化、デジタルアーカイブ化のための素材の記録・収集活動を行った。とくに、火災にあった首里城の現状の記録については、公開エリアの拡大状況に応じて学生や院生の協力を得て記録を進めた。そのほか、沖縄女子短期大学の学生や教職員の協力により、地域の芸能、年末年始の風景、オーラルヒストリーの記録活動を進めることが出来た。</p> <p>諸活動の成果については、次年度以降の公開に向けて整理作業を行っている。</p>	<p>・令和元年度 修士論文要旨集</p> <p>・令和元年度 卒業論文要旨集</p> <p>・沖縄地域文化デジタルアーカイブ「沖縄おうらい」</p> <p>・令和元年度 基礎演習・応用演習実践記録報告書</p>

【2 学術研究の推進】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>2 研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>① カリキュラム開発研究は、各教科教育の基礎として言語力の育成に関する教育実践研究と教材開発研究の情報収集データベースとそれを用いた実践研究システムを構成する。</p> <p>② デジタルアーカイブ研究は、沖縄地域の地域文化資料やデジタルアーカイブを文化情報研究センターと連携しながら開発し、教育・観光等に広く適用できるシステムを構築する。</p> <p>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 沖縄カリキュラム開発研究センターに教育実践・デジタルアーカイブ研究データの収集・管理・利用の研究組織を構成し、関連研究データベースシステムを設置する。</p>	<p>III</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p>① 学力向上や定着などに関する教育実践研究を学生や大学院生の勤務校にて行った。情報収集データベースとそれを用いた実践研究システムの構成については、諸権利処理の課題があり、個人の研究の範囲内での収集にとどまり、集約したデータベース化には着手できなかった。</p> <p>② 沖縄地域文化のデジタルアーカイブ化については、「沖縄おうらい」の誤字の修正、見易さやわかりやすさを考慮したデザインの見直しなどの改訂を行った。</p> <p>① 地域の小学校と連携して教育実践データの収集・分析を進め、学生や院生の研究データとして活用した。関連するデータベースシステムの構築については、諸権利処理が不十分なため収集までにとどまりデータベース化には至らなかった。</p>	<p>・令和元年度 修士論文要旨集 ・令和元年度 卒業論文要旨集</p> <p>・沖縄地域文化デジタルアーカイブ「沖縄おうらい」</p> <p>・令和元年度 修士論文要旨集 ・令和元年度 卒業論文要旨集 ・令和元年度 基礎演習・応用演習実践記録報告書</p>

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>3 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 県内の教育実践者や県内外の研究者で組織する沖縄デジタルアーカイブ研究会を充実させ、本学および沖縄県教育センターで全県の学校等へ教材・カリキュラムの流通および提供を可能にする。</p> <p>・ 言語力(論理的思考操作に関する言語)育成の小学校全学年の毎日の学習プリント、学習指導情報を本学および沖縄県教育センターから県内の小学校等へ流通させ、毎日の小学校等での教育利用を可能にし、基礎学力向上の支援および教師の教材開発の支援を図る。</p>	<p>III</p>	<p>① 沖縄県におけるデジタルアーカイブ・シンポジウム、デジタルアーキビスト資格取得講座を沖縄女子短期大学の協力を得て行った。地域の研究者や実践者間の連携と課題解決をテーマに報告と交流が行われた。</p> <p>・ 前年度に沖縄の教育実践者や院生をはじめとする研究者、岐阜の文化情報研究センターの協力により、毎日の学習プリント(算数)、ことばの学習プリントを整備した。現在、沖縄サテライト校で開発を進めているWebサイトにてダウンロードが可能となるよう作成中である。</p>	<p>デジタルアーカイブの活用(処理)の課題</p>